べっぷの文化財

No.51
令和３年３月

ー別府の温泉建築ー

浜脇高等温泉（昭和 3年（1928）建築）

別府市教育委員会
別府市文化財保護審議会

目　次

1　はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

外山健一（別府市文化財保護審議会委員）

2　別府町・別府市の温泉行政歴史年表・・・・・・・・・・・・2

外山健一（別府市文化財保護審議会委員）

3　別府八湯と別府市営温泉・・・・・・・・・・・・・・・・・3

外山健一（別府市文化財保護審議会委員）

4　温泉建築に携わった人物紹介・・・・・・・・・・・・・・・4

外山健一（別府市文化財保護審議会委員）

5　別府の温泉建築物の歴史年表・・・・・・・・・・・・・・・5

外山健一（別府市文化財保護審議会委員）

6　写真で見る温泉建築物の変遷・・・・・・・・・・・・・・・8

三ヶ尻勝（別府市文化財保護審議会委員）

参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

1　はじめに

別府温泉の歴史は古く、８世紀の初めに編纂された『伊予国風土記』の逸文に「湯の郡。大穴持命、見て悔い恥ぢて、宿命毘古那命を活かさましく欲して、大分の速見の湯を、下樋より持ち度り来て宿命毘古那命を漬そ浴ししかば、暫が間に活起りまして、居然しく詠して、「眞暫、寝ねつるかも」と曰りたまひて、踐み健びましし跡處、今も湯の中の石の上にあり。凡て、湯の貴く奇しきことは、神世の時のみにはあらず、今の世に疹痾に染める萬生、病を除やし、身を在つ栗薬と爲せり」。この風土記では大穴持命が宿奈毘古那命を蘇生させるため、「大分の速見の湯」から下樋を通して、道後に湯を引いたと記されている。さらに『豊後国風土記』には、鉄輪・亀川地区の記述がある。「赤湯の泉　郡の西北のかたにあり。この湯の泉の穴は、郡の西北のかたの竈門山にあり、その周りは十五丈ばかりなり。湯の色は赤くして埿あり。用ゐて屋の柱を塗るに足る。埿、流れて外に出づれば、變りて清水と爲り、東を指して下り流る。因りて赤湯の泉といふ」。亀川地区の血の池地獄を指すと云われている。又「玖倍理湯の井　郡の西にあり。この湯の井は、郡の河直山の東の岸にあり。口の径は丈餘りなり。湯の色は黒く、埿、常に流れず。人、竊に井の邊に到りて、聲を発げて大言へば、驚き鳴りて涌き騰ること。二丈餘りばかりなり。その氣熾りて熱く、向ひ昵くべからず。縁邊の草木は悉く皆枯れ萎む。因りて榲湯の井といふ。俗に玖倍理湯の井といふ」とある。

「河直」は鉄輪の語源になる地名と云われ、鉄輪の西にある山のことを指したとみられる。現在の鉄輪地区の中の間歇泉と考えられている。

鎌倉時代には、大友頼泰が元寇の役（弘安４年（1281））で傷を負った武士を癒すため、別府、鉄輪、浜脇などに療養所をつくったと云われている。

江戸時代の元禄７年（1694）４月 11 日福岡藩士で黒田長重の祐筆であった本草学者・儒学者の貝原益軒が編纂した『豊國紀行』に別府温泉の賑わいが記述されている。

幕末から明治にかけて発行（勧進元・東京）された「諸國温泉功能 鑑 番付」によると、西の前頭三枚目が「豊後濱脇温泉之湯」・前頭六枚目が「豊後別府之湯」であり、この頃は、浜脇温泉が別府温泉よりも上位に位置付られている。

本題の温泉建築物は、その温泉文化の象徴であり、代名詞の側面を持っている。その最たるものが、愛媛県松山市の「道後温泉本館」（明治 27 年（1894）建築）の温泉建築物である。

本県においては、明治７年（1874）に大分県令森下景端が、浜脇温泉などを県費でもって改築したことで県政が温泉文化に傾注していたことが伺い知れる。

現在、別府市には、温泉場の運営形態により、市有市営温泉（18）市有区営温泉（70）区有区営温泉(13)その他個人温泉場がある。これらの温泉建築物すべてを網羅することは紙面の都合上割愛する。従って、著名な温泉建築物で、現在すでに廃館となっている建物を含めて、これらを時系列で温泉建築物の変遷を紹介する。

2　別府町・別府市の温泉行政歴史年表

この項では、温泉に関する出来事や国・県・市・町の法令・規程及び条例等を時系列でまとめたものである。特筆すべき点は「風俗上の規律」として大分県が「湯屋取締規則」を制定、その所轄を警察署とし、12 歳以上の男女の混浴を禁止、違反者には 25 円の罰則を科した。

区分	年月日	事項	備考
別府町	明治5年(1872)	浜脇温泉・不老泉浴場を県費によって改築する。	大分県
	明治7年(1874)	紙屋・浜脇・鉄輪・亀川などの温泉浴場を県費によって改築する。	大分県
	明治18年(1885)7月6日	「湯屋取締規則」を公布する。	大分県・警察署所轄
	明治32年(1899)8月18日	「湯屋営業取締規則」大分県令により「12歳以上の男女をして、混浴せしむことを得ず」	大分県・警察署所轄 (罰金25円)
	明治39年(1906)4月1日	「別府町温泉使用料徴収規程」を制定する。	別府町
	明治42年(1909)3月9日	「別府町上等温泉取締規程」を制定する。	別府町
	明治42年(1909)6月	別府町役場に「温泉係」を設置する。	別府町
	明治42年(1909)8月1日	「別府町海岸砂湯管理規程」を制定する。	別府町
	明治44年(1911)8月10日	別府町役場に「温泉課」を設置する。	別府町
	明治45年(1912)6月5日	「大分県鉱泉取締規則」を公布する。	大分県
	大正8年(1919)3月26日	「別府町温泉使用料徴収規程」を改正する。4月12日から施行。	別府町
	大正10年(1921)6月15日	「別府町入湯税条例」を制定する。	別府町
	大正13年(1924)1月26日	「京都帝国大学理学部附属物理学研究所」を誘致する。	別府町
別府市	大正14年(1925)3月30日	「別府市市設温泉規程」を制定する。	別府市
	大正14年(1925)7月11日	「鉱泉噴気孔穿掘浚渫許可標準内規」を制定する。	大分県
	大正14年(1925)8月	「別府市特別税入湯税条例」を制定する。	別府市
	昭和6年(1931)10月31日	「九州帝国大学附属温泉治療学研究所」を誘致する。	別府市
	昭和13年(1938)4月1日	別府市営温泉建物及び敷地使用並に使用料条例を制定する。	別府市
	昭和14年(1939)2月	「傷痍軍人別府温泉療養所」を誘致する。	別府市
	昭和23年(1948)7月10日	「温泉法」を公布する。	国
	昭和24年(1949)11月1日	「温泉法施行細則」を制定する。	大分県
	昭和24年(1949)11月1日	「温泉法施行手続」を制定する。	大分県
	昭和24年(1949)11月1日	「温泉法施行細則」を制定する。	大分県
	昭和31年(1956)8月27日	「別府市営温泉プール」を開設する。	別府市
	昭和34年(1959)3月20日	「別府市有温泉施設等の設置及び管理に関する条例」を制定する。	別府市
	昭和34年(1959)4月1日	「同上条例施行規則」を制定する。	別府市
	昭和43年(1968)	「大分県温泉審議会運営規定」を公布する。	大分県
	平成4年(1992)4月1日	「大分県環境審議会温泉部会内規」を公布する。 「大分県温泉審議会運営規程」を廃止する。	大分県
	平成12年(2000)3月31日	「温泉法及び大分県温泉法施行条例の施行に関する規則」を制定する。	大分県
	平成15年(2003)4月1日	「別府市有温泉施設の使用料の額を定める規則」を制定する。	別府市
	平成18年(2006)7月31日	「別府市有温泉施設入湯券等発行規則」を制定する。	別府市

3　別府八湯と別府市営温泉

この項では、別府八湯の市営温泉をまとめたものである。別府八湯の内、唯一市営温泉が無い観海寺温泉は、石垣村の時代、昭和６年（1931）10 月 28 日旅館・浴場・巡査駐在所・個人住宅を含む 19 戸が全焼した。この４年後の昭和 10 年（1935）９月４日別府市と合併し、観海寺温泉街の復興に務めたが、市営温泉の建設には至らなかった。

令和２年 10 月１日、男女共同参画センター「あす・べっぷ」内に、別府温泉「文化の湯」を開設、一般開放した。

別府温泉（８）				
永石温泉	竹瓦温泉	不老泉	田の湯温泉	海門寺温泉
北浜温泉（テルマス）		別府市コミュニティーセンター（芝居の湯）		文化の湯

亀川温泉（３）				
別府海岸砂湯	浜田温泉	亀陽泉		

明礬温泉（１）		
鶴寿泉	地蔵泉（閉館・平成16年11月22日）	

浜脇温泉（２）				
浜脇温泉	湯都ピア浜脇			

鉄輪温泉（２）				
鉄輪むし湯	熱の湯			

柴石温泉（１）				
柴石温泉				

堀田温泉（１）				
堀田温泉				

観海寺温泉（０）				

４　温泉建築に携わった人物紹介

この項では、温泉建築に携わった人物をすべて紹介する予定であったが、例えば、寿温泉・駅前高等温泉・永石温泉などの古い建築物には、棟上祭の日に、施主・設計者・棟梁の氏名と棟上げの年月日を記した「棟札」を棟木に打ち付けて残しているケースが多く、屋根裏まで今回調査がなされてないのが残念である。

池田三比古　氏

明治 26 年（1893）大分県竹田町（竹田市）寺町通で、父衛藤敦夫、母ミツの三男として生まれる。
明治 44 年（1911）竹田中学校を卒業後、縁あって池田家の養子となる。
大正 8 年（1919）東京蔵前「東京高等工業学校」（現・東京工業大学）建築専科を卒業する。
その後、海軍省、通信省大臣官房経理課営繕係を経て渡邊仁設計事務所に勤務する。
大正 11 年（1922）別府町役場営繕課技手として奉職した。
昭和 20 年（1945）1 月 31 日土木課技師、昭和 24 年（1949）建築課長に昇格、昭和 24 年（1949）12 月 12 日市役所を退職した。
昭和 26 年（1951）2 月 20 日第 2 回別府市議会議員選挙に立候補する。立候補者 96 人中第 16 位で当選を果した。
昭和 30 年（1955）4 月 30 日第 3 回別府市議会議員選挙に立候補する。立候補者 46 人中　第 26 位で再選を果たした。
昭和 34 年 (1959)4 月 30 日第 4 回別府市議会議員選挙に立候補する。立候補者 57 人中第 41 位で落選した。
昭和 41 年 (1966) 別府市文化財調査員に就任し、昭和 52 年（1977）まで務めた。
昭和 43 年 (1968)7 月美術協会会長に就任し、昭和 53 年（1978）3 月まで務めた。
昭和 54 年（1979）11 月 14 日他界享年 86 歳。

主な建築設計（町吏員以後）

- 浜脇高等温泉　昭和 3 年 (1928) 6 月 10 日
- 市立中学校　昭和 9 年（1934）
- 西小学校　昭和 10 年（1935）
- 北浜海岸天然砂湯　昭和 11 年 (1936)7 月 24 日
  落成総工事費 16,000 円
- 浜田温泉　昭和 10 年 (1937)5 月 21 日落成
- 観海寺の薬師堂　昭和 8 年 (1933)

池田三比古 氏

村上利作（むらかみりさく）　氏

明治 28 年（1895）愛媛県（今治市）越智郡吉海町津島で出生。郷校を出て別府町に奉職する。昭和 12 年（1937）42 歳の時、別府市営竹瓦温泉の設計に従事する。昭和 23 年（1948）3 月別府市役所を退職。その後株式会社植良組、安部組を経て別府市役所嘱託として石垣土地区画整理事務所勤務の昭和 42 年（1967）1 月 17 日現役で他界、享年 72 歳。

主な建築設計

・竹瓦温泉　昭和 13 年 (1938)8 月 29 日落成

設計者　村上利作

棟梁　　田中亀鶴

施工業者　水野和一郎

看板文字　第 5 代別府市長　小野廉（おのすなお）の揮毫になる。

村上利作 氏

5　別府の温泉建築物の歴史年表

この項では、各温泉建築物の変遷を年代順に列挙したものである。温泉建築は、温泉浴場を内在するが故に建築物の老朽化が早く、したがって耐用年数は、一般建築物と比較し短い。数十年毎に建て替えを繰りかえしている。その例として、不老泉は、明治 5 年 (1872) に創建して現在の建物は 5 度目の建物である。

明治期に建てられた建築物は、主に和風建築であった。大正ロマンの風潮の中で、和風建築から洋風建築へと変貌をとげた例として、寿温泉、不老泉、駅前高等温泉などが挙げられる。

その例外として興味深いものが竹瓦温泉である。明治 35 年（1902） 9 月和風建築を同じ和風に建て替えた。大正 2 年 (1913) 5 月洋風建築を採用したが、昭和 13 年 (1938) 8 月 29 日再び和風建築に建て替えられた。

大正初期から昭和 14 年頃までにかけて、世界周遊大型船（エンプレス・オブ・ブリテン号 42,000 トン）などが 20 回寄港、オーストラリア海軍、仏海軍、英国海軍やヘレンケラー女史、ドイツ、イタリー温泉使節団一行、ポール・クローデルなどの著名人なども別府を訪れた。別府を訪れた西洋人は、日本文化にふれ興味をいだいた。

各温泉建築の建て替えには、その時代背景が大きく影響を与えたことがうかがえる。

別府の温泉建築物の歴史年表

区分	温泉施設	創設年及び改築年（改築年は完成日又は落成日） 奈良 平安 鎌倉 南北朝 室町 戦国 安土桃山 江戸 明治
市営温泉	永石温泉	
	竹瓦温泉	創設は明治 12 年と云われている（竹瓦葺） 明治 35 年 和風平屋
	不老泉	明治 5 年　明治 35 年 3 月 22 日
	田の湯温泉	創設は江戸時代とみられるが詳細は不明　明治 39 年夏（瓦葺） 明治 39 年の改築以前は茅葺
	海門寺温泉	
	北浜温泉テルマス	
	別府市コミュニティーセンター 芝居の湯	
	別府海浜砂湯	
	浜田温泉	明治 12 年もしくは明治 30 年頃創設か
	亀陽泉	明治 27 年 創設 木造平屋 明治後期には木造 2 階
	鶴寿泉	寛文年間に創設と伝えられる
	地蔵泉	弘安年間に大友氏 3 代当主大友頼泰が開いたと伝えられる
	浜脇温泉	用明天皇の入湯が伝えられる　明治 7 年（東・西温泉）　明治 37 年（東温泉：弧月泉） 明治 37 年もしくは明治 39 年（西温泉：清華泉）
	湯都ピア浜脇	
	鉄輪むし湯	一遍上人の伝承が残る
	熱の湯	一遍上人の伝承が残る 明治 45 年 2 階
	柴石温泉	寛徳元年に親仁親王（のちの後冷泉天皇）が入湯したと伝えられる
	堀田温泉	宝永 2 年に創設と伝えられる
その他	北浜天然砂湯	
	別府市営温泉プール	
	霊潮泉	明治 25 年もしくは明治 26 年
	霊砂湯	
	寿温泉	明治 32 年創設　床ノ下温泉と呼ばれていた
	駅前高等温泉	
	楠温泉	安政年間以前に創設　明治 8 年
	二條泉	江戸末期に創設
	渋の湯	明治 28 年改築 明治 8 年 12 月 10 日
	紙屋温泉	明治 7 年 明治 35 年 9 月
	梅園温泉	
	鶴見温泉	
	四の湯温泉	用明天皇や親仁親王（のちの後冷泉天皇）が入湯したと伝えられる　明治 40 年木造 2 階
	浜脇薬師温泉	明治 30 年
	ひょうたん温泉	
	照湯温泉	天保年間に久留島通嘉により再興　明治末期平屋建
	柳温泉	明治 30 年創設 明治 42 年

大正	昭和	平成
	昭和 16 年 7 月 12 日に別府警察署の跡地（現在地）に新築 昭和 7 年 1 月 16 日（一夜温泉と呼ばれていた）	平成 3 年 12 月（補修）
大正 2 年 5 月 洋風 2 階	昭和 13 年 8 月 29 日 和風 2 階	
大正 10 年 3 月 洋風	昭和 32 年 3 月 31 日 鉄筋 3 階	平成 26 年 8 月 8 日 鉄筋 2 階
あぜ無の湯、川の湯と呼ばれていた 大正 8 年	昭和 40 年 3 月 31 日	平成 11 年 12 月 14 日
	昭和 36 年 1 月 20 日 2 階 昭和 11 年市営となる	昭和 60 年 9 月 平成 22 年 2 月 26 日
		平成 10 年 10 月 30 日
		平成 7 年 4 月 2 日
		昭和 61 年 平成 14 年 4 月 10 日
大正 9 年　木造 2 階	昭和 10 年 木造 2 階	平成 14 年 3 月 17 日
昭和 3 年　亀陽泉千人風呂と呼ばれていた	昭和 40 年 10 月 15 日	平成 28 年 7 月 26 日
	昭和 37 年 12 月 25 日	平成 8 年 3 月 25 日
	昭和 42 年	平成 16 年 11 月 22 日休館 平成 5 年 2 月 19 日
昭和 3 年 6 月 10 日（浜脇温泉・浜脇高等温泉）		平成 3 年 2 月 2 日
		平成 3 年 7 月 17 日
	昭和 11 年 12 月 14 日	昭和 45 年 9 月 14 日 平成 18 年 8 月 24 日
	昭和 11 年平屋	昭和 52 年 5 月 20 日
	昭和 11 年 12 月 16 日	平成 9 年 4 月 15 日
（東温泉）大正 10 年 （西温泉）昭和 10 年		平成 15 年 4 月 10 日
大正 8 年	昭和 11 年 7 月 24 日	昭和 40 年 12 月 23 日 閉鎖
	昭和 31 年 8 月 17 日	平成 4 年 閉鎖 平成 8 年 解体
大正 6 年	昭和 30 年光町に移築（別府市柔剣道会館として使用される） 昭和 13 年 1 月 7 日	昭和 50 年 7 月末 閉館
	昭和 6 年 11 月 3 日	昭和 26 年 10 月 14 日 ルース台風で被害が生じ閉館
大正 13 年		
大正 15 年		
大正 3 年 6 月 21 日		昭和 39 年楠会館 平成 17 年 7 月 6 日老朽化のため解体
大正 2 年 木造 2 階	昭和 18 年 1 月 24 日 火災により閉館	
	昭和 11 年	昭和 33 年 3 月 31 日鉄筋 平成 10 年 3 月 31 日
大正 5 年	昭和 43 年 3 月 19 日に市が寄付を受ける 昭和期鉄筋コンクリート造 2 階	
大正初期		平成 28 年 4 月 16 日熊本地震で閉館 令和元年 12 月 12 日
大正期		
		昭和 28 年 3 月 31 日
大正前期		昭和 63 年 3 月浜脇再開発事業により取りこわし
	昭和 2 年木造	昭和 20 年 5 月 取りこわし
		昭和 42 年 4 月 11 日別府市指定の史跡
大正 3 年 11 月 3,158 円	昭和 15 年	平成 3 年 4 月閉館

6　写真で見る温泉建築物の変遷

（1）永石温泉

所在地　別府市南町２番２号

建築の変遷

①写真 1-1

・建築年代：昭和７年（1932）１月 16 日落成
・構造・規模：木造平屋建て
・屋根形状：金属波板葺き切妻造り
・設計者・施工者：不明
・特徴：屋根は波型トタン葺き、当時でも非常に質素な造り、でも地域の人達は何時でも入浴出来る喜びで祝福されて建設された建物で在る事が写真から伺われる。「一夜温泉」とも呼ばれた。
・建築年代参考資料：右写真（写真 1-1）中記載

写真 1-1　永石温泉

②写真 1-2

・建築年代：昭和 16 年（1941）７月 12 日落成
・構造・規模：木造平屋建て
・屋根形状：金属板一文字葺き入母屋造り
・設計者：不明、施工者：工藤秀利
・特徴：屋根の棟に瓦を葺き、勾配のきつい流れ、軒先は厚く見せ茅葺屋根を連想する。平面形状はＬ型で鍵屋造り（曲屋造りともいう）の形状。
　農村住宅をモデルにデザインしたのではと思われる建物。
　工事費 13,870 円　平成３年 12 月 20 日補修
　※従来の温泉位置と異なり、旧別府警察署跡地に新築された。
・建築年代参考資料：別府市 1985

写真 1-2　永石温泉

（2）竹瓦温泉

所在地　別府市元町 16 番 23 号

建築の変遷

①写真 2-1

・建築年代：明治 35 年（1902）落成
・構造・規模：木造平屋建て
・屋根形状：本屋棟（桟瓦葺き寄棟造り）
　　越屋根（桟瓦葺き入母屋造り）
・設計者・施工者：不明
・特徴：２階建の様に見えるが、２階部分でなく大型の換気目的の越屋根。敷地出入り口には冠木門が設けられている。現在の建物と比べは小規模だったと思われる。
・建築年代参考資料：野尻 1902

写真 2-1　竹瓦温泉

②写真 2-2

・建築年代：大正２年（1913）５月落成
・構造・規模：玄関棟（桟瓦葺き入母屋造り）、本屋棟（桟瓦葺き形状不明）
・設計者・施工者：不明
・特徴：正面玄関は桟瓦葺き入母屋造りの和風だが柱付の方杖は曲線、鼻隠板はうろこ状の飾り付き、和洋折衷。外壁は下見板張りにペンキ塗り。時代の流れも在ったのか擬洋風建築に変身。
・建築年代参考資料：林・溝口 1915

写真 2-2　竹瓦温泉

③写真 2-3
・建築年代：昭和 13 年（1938）8 月 29 日落成
・構造・規模：木造 2 階建て
・屋根形状：玄関棟（銅板一文字葺き唐破風造り）
　　本屋棟（桟瓦葺き入母屋造り）
・設計者：村上利作（別府市職員建築技師）
　施工者：水野 和一郎（棟梁：田中 亀鶴）
・特徴：正面玄関は 1 対 2 本の柱を設け、屋根は唐破風造りの重厚な寺社様式の建物。1 階は普通入浴棟と砂湯の二種類の入浴様式を持ち、2 階は浴後静養の為の休憩室とした和風の大広間を持ち、現存の木造別府温泉建築では最大級であろう。看板文字は当時市長の小野廉氏（すなお）の揮毫（きごう）。平成 16 年（2004）国登録有形文化財に登録、経済産業省平成 20 年度「近代化産業遺産続 33」に認定。

写真 2-3　竹瓦温泉

・建築年代参考資料：昭和 13 年 8 月 30 日付け大分新聞

（3）不老泉

所在地：別府市中央町 7 番 16 号
①写真 3-1
・建築年代：明治 5 年（1872）
・構造・規模：木造平屋建て
・屋根形状：本屋棟（桟瓦葺き入母屋造り）、
　下屋（桟瓦葺き※錣（しころ）屋根造り）
・設計者・施工者：不明
・特徴：屋根の造りが珍しい錣造り、妻壁には※狐格子付、当時の温泉建築としては高級施設だったのか番台が描かれている、有料だったのだろう。出入り口は開放され（21）初期霊潮泉に似ている。※錣屋根：兜で肩を保護する部分が屋根の形状が似ている故。※狐格子：縦、横材を細かく十字に組み合わせた格子。木連格子とも言う。
・建築年代参考資料：別府市 1985

写真 3-1　不老泉

②写真 3-2
・建築年代：明治 35 年（1902）3 月 22 日落成
・構造・規模：木造 3 階建て
・屋根形状：2，3 階本屋棟（桟瓦葺き寄棟造り）
　　2 階下屋（桟瓦葺き片流れ寄棟造り）
・設計者・施工者：不明
・特徴：瓦葺き屋根を持つ門と同屋根付き真壁造りの土塀、板塀を巡らせた武家屋敷風、一見温泉建築とは思えない建物。2 階 3 階は開放の周り縁が設けられ、休憩室となっていた。
・建築年代参考資料：田島 1910、別府市 1928

写真 3-2　不老泉

③写真 3-3
・建築年代：大正 10 年（1922）3 月落成
・構造・規模：構造不明、眺望台付 3 階建て
・屋根形状：玄関棟（桟瓦葺き切妻造り）
　　本屋棟（桟瓦葺き寄棟造り）
・設計者・施工者：不明
・特徴：玄関は人造石洗い出造りと推察する柱、梁。正面はノコギリ状の破風飾り付き、1 階外壁はスタッコ壁 2 階外壁は梁型表しにレンガかタイル張り。五角形状の張り出し室、開口部は縦長上げ下げ窓を多用し 2 階窓にはテントが付く。工事費 100,760 円
・建築年代参考資料：別府市 1933

写真 3-3　不老泉

④写真 3-4
・建築年代：昭和 32 年（1957）3 月 31 日落成
・構造・規模：鉄筋コンクリート造 3 階建て
　　階段室（推察） 4 階建て
・屋根形状：※陸屋根（推察）
・設計者：福田広太郎・田原宏・田崎一郎
　施工者：本城組
・特徴：柱、梁が整然と並び採光、通風が大きく確保できるカーテンウォール式の建物。学校建築も此の構造形式が多い。
　※陸屋根：水平に近い勾配で作られた屋根
・建築年代参考資料：別府市観光戦略部温泉課ヒアリング

写真 3-4　不老泉

⑤写真 3-5
・建築年代：平成 26 年（2014）8 月 8 日落成
・構造・規模：鉄筋コンクリート造 2 階建て
・屋根形状：本屋棟（桟瓦葺き入母屋造り）
　　1 階下屋（桟瓦葺き片流れ寄棟造り）
・設計者：（有）建築工房チーム二十一
　施工者：（株）平野工務店
・特徴：屋根は下り棟を設け、正面妻壁、2 階壁は木製格子を持ったコンクリート造の町屋風建物で耐火性、耐震性、近代設備を備えた温泉建築。
・建築年代参考資料：別府市観光戦略部温泉課ヒアリング

写真 3-5　不老泉

（4）田の湯温泉

所在地：別府市田の湯町 4 番 22 号
①写真 4-1
・建築年代：大正 8 年（1919）落成
・構造・規模：木造平屋建て
・屋根形状：桟瓦葺き入母屋造り
・設計者・施工者：不明
・特徴：明治 39 年頃既に在った建物の茅葺き屋根を瓦葺きに改修し、大正時に写真の建物に建て替えられた。中央部分の軒が一段高く十字形の棟を持ち、四方向又は三方向に入母屋造りの屋根を持ち天井面近くに湯気抜きの欄間が連続し設けられている武家風造り。工事費 6,462 円
・建築年代参考資料：別府市 1933

写真 4-1　田の湯温泉

②写真 4-2
・建築年代：平成 11 年（1999）12 月 14 日落成
・構造・規模：鉄筋コンクリート造平屋建て
・屋根形状：玄関棟（セメント板葺き両流れ造り）
　　本屋棟（セメント板葺き拝み合わせ片流造り）
・設計者：菊池五郎
　施行者：松田建築（有）
・特徴：片流れ屋根の形状を利用し、壁面上部に採光用、換気用窓を設ける。正面外壁をキャンバスに見立て、三角形、四角形の窓と丸型の壁飾を持つ建物。
・建築年代参考資料：別府市観光戦略部温泉課ヒアリング

写真 4-2　田の湯温泉

（5）海門寺温泉

所在地：別府市北浜 2 丁目 3 番 2 号
①写真 5-1
・建築年代：平成 22 年（2010）2 月 26 日落成
・構造、規模：（浴室棟）鉄筋コンクリート造・（管理棟、集会凍）木造平屋建て
・屋根形状：桟瓦葺き切妻造り
・設計者：ETO 空間アトリエ一級建築士事務所
　施工者：和田組
・特　徴：昭和 11 年（1936）に市営温泉として建設されたが、平成 22 年（2010）場所を少し移動し、現在「海門寺公園」北側に隣接した敷地に建設された。
　浴場棟と管理棟、集会室棟が明確に分離され温泉建築特有の湯気による維持管理を考慮した建物。公園側に朱色の壁に大きな丸窓を設け、温泉街の鮮やかさを慎ましく表現している。
・建築年代参考資料：別府市観光戦略部温泉課ヒアリング

写真 5-1　海門寺温泉

（6）北浜温泉テルマス

所在地：別府市京町 11 番 1 号
①写真 6-1
・建築年代：平成 10 年（1998）10 月 30 日
・構造・規模：鉄筋コンクリート造 2 階建て一部木造
・屋根形状：日本瓦葺き寄棟造り、ピラミット型大型採光屋根
・設計者：（株）エス・ケイ・エム設計計画事務所
　施工者：光綜合・望月建設工事共同企業体
・特徴：テルマスとはラテン語で浴場を意味する。軒出は長く、受け材として木造斜材を外部に表し、外壁四面は大きな開口部を設け風光明媚な別府市の海、山への眺望を考慮された建物。屋外健康浴場は水着着用で入浴と別府市の中でも珍しい入浴法を採用。
・建築年代参考資料：別府市観光戦略部温泉課ヒアリング

写真 6-1　北浜温泉テルマス

（7）芝居の湯

所在地：別府市上野口町 29 番 13 号
①写真 7-1
・建築年代：平成 7 年（1995）4 月 2 日落成
・構造・規模：木造平屋建て
・屋根形状：桟瓦葺切妻造り
・設計者：早川正夫建築設計事務所
　施工者：浦松建設
・特徴：浴室内部に大口径の木製柱、小屋組構造材は大型木製梁を使用し伝統的木造工法で造られた建物。敷地内には花道、桝席を設けた芝居小屋棟が在り、この浴場名の由来でもある。
・建築年代参考資料：別府市観光戦略部温泉課ヒアリング

写真 7-1　芝居の湯

（8）亀陽泉

所在地：別府市亀川中央町 10 番 26 号
建築の変遷
①写真 8-1
・建築年代：昭和初期
・構造、規模：不明
・屋根形状：玄関棟（金属板瓦棒葺き寄棟造り）本屋棟（桟瓦葺き袴腰屋根）
・設計者、施工者：不明
・特　徴：千人風呂と名が付く様に、玄関ポーチを大きく造り多数の入浴客が同時に利用出来る空間を設けている。正面外観は、腰にタイル張り、壁は大壁造り、軒天井は水平に造られた、袴腰屋根の洋風建築。和風造りであれば、屋根形状は兜造りと呼ぶ。
・建築年代参考資料：安部 1987

写真 8-1　亀陽泉

②写真 8-2
・建築年代：平成 28 年（2016）7 月 26 日落成
・構造、規模：鉄筋コンクリート造平屋建て
・屋根形状：桟瓦葺き入母屋造り
・設計者：（株）大有設計事務所
　施工者：（株）後藤工務店
・特　徴：浴場名に因み正面妻壁に亀甲文様の明かり取りを設け、浴槽床に 1 ヶ所子亀を彫り込んだ石を埋め込む等、工夫を凝らしたデザインが楽しい。温泉設備配置にも考慮し、亀川の町に慎ましく溶け込む様配慮されている。
・建築年代参考資料：別府市観光戦略部温泉課ヒアリング

写真 8-2　亀陽泉

（9）浜田温泉

所在地：別府市亀川浜田町 991 番地 6 号
①写真 9-1
・建築年代：大正 9 年（1920）頃
・構造・規模：木造 2 階建て
・屋根形状：玄関棟（屋根材不明唐破風造り）
　　本屋棟（桟瓦葺き屋根形状不明、越屋根付き）
・設計者・施工者：不明
・特徴：石組腰壁と石柱の門を正面に構え、唐破風造りの玄関 1 階は浴場であろう、2 階は欄間壁付開放縁を持ち旅館風の建物。（料亭だったと言われている）小振りな良く手入れされた松、周辺は松の防風林か、のどかな風景に佇む。

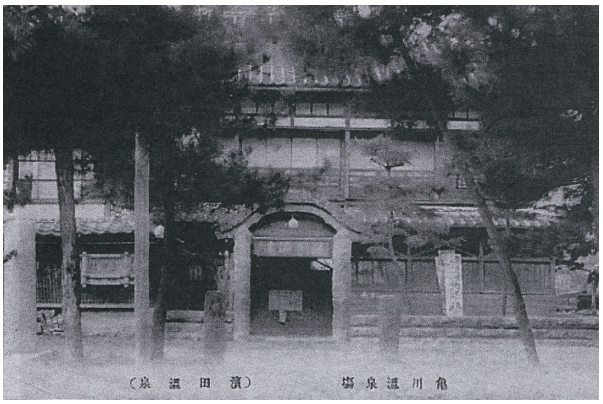


写真 9-1　浜田温泉

②写真 9-2
・建築年代：昭和 10 年（1935）9 月 2 日落成
・構造・規模：木造平屋建て
・屋根形状：玄関棟（銅板葺き唐破風造り）
　　2 階本屋棟（銅板葺千鳥破風付宝形造り）
・設計者：池田 三比古（別府市職員建築技師）
　施工者：小嶋豊吉
・特徴：唐破風玄関屋根と宝形造りの本体棟で構成された寺社様式建築で（2）竹瓦温泉とほぼ同時期に建設された兄妹建築。一時は解体される憂き目に会ったが、現在は浜田温泉資料館と成り平成 18 年（2006）国登録有形文化財に登録。
・建築年代参考資料：『市報べっぷ』平成 17 年 7 月号

写真 9-2　浜田温泉

③写真 9-3
・建築年代：平成 14 年（2002）3 月 17 日落成
・構造・規模：鉄筋コンクリート造平屋建て
・屋根形状：玄関棟（金属板一文字葺き唐破風造り）
　　本屋棟（金属板葺き千鳥破風付宝形造り）
・設計者：西原一級建築士事務所、施工者：（株）ケイズ
・特徴：浜田温泉資料館をモデルに鉄筋コンクリート造として別敷地に建設。別府市の温泉建築で車椅子、高齢者対策にバリアフリーの考え方を一早く導入した初期の建物。
・建築年代参考資料：別府市観光戦略部温泉課ヒアリング

写真 9-3　浜田温泉

（10）地蔵泉

所在地：別府市明礬２組

①写真 10-1

・建築年代：大正８年（1919）12 月落成
・構造・規模：木造平屋建て
・屋根形状：越屋根桟瓦葺き寄棟造り
・設計者・施工者：不明
・特徴：湯気抜きの越屋根、壁面全体に開口部を設けた機能優先で素朴な建物。
・建築年代参考資料：平成 19 年６月 19 日付け今日新聞
「懐かしの別府ものがたり」

写真 10-1　地蔵泉

（11）寿温泉

所在地：別府市楠町 11 番地 15 号

①写真 11-1

・建築年代：明治 32 年（1899）落成
・構造・規模：木造２階建て
・屋根形状：玄関棟（湯気抜き塔付桟瓦葺き切妻造り）
本屋棟（桟瓦葺き入母屋造りでは）
・設計者・施工者：不明
・特徴：変形した敷地に建ち目玉状飾りが付く破風板、塔状の湯気抜き、北欧民家風の建物。背景には立派な日本家屋が立ち並ぶ街並みに突然現れる此の建物、当時別府にもハイカラな建物を作る棟梁が居たのだ。
・建築年代参考資料：別府市 1933

写真 11-1　寿温泉

②写真 11-2

・建築年代：大正 13 年（1924）１月 26 日落成
・構造、規模：構造不明、２階建て又は３階建て
・屋根形状：スレート葺き切妻造り、ベランダ陸屋根
・設計者、施工者：不明
・特　徴：大きなベランダを設けた洋風建築で、開口上部にアーチを取り入れ、屋根には半円形の換気窓、近年復原修理された中央公会堂の先駆け的な建物と思われる。幸いにも東角の半円アーチ付出入り口、南面と北面（流川通り側）に扇形アーチを持つ窓が現存し、大正時代に建設された（12）駅前高等温泉と同時代の建物で別府温泉建築の貴重な遺産である。工事費 7,286 円

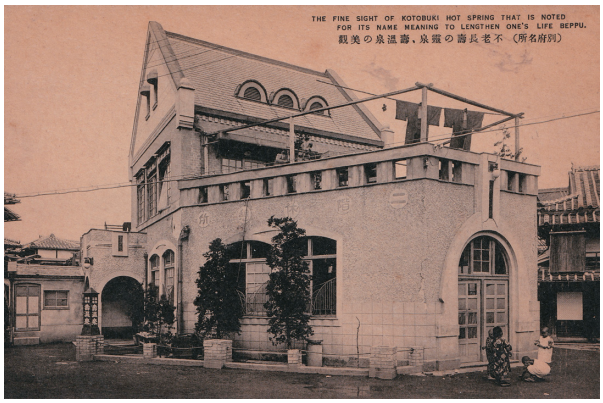


写真 11-2　寿温泉

（12）駅前高等温泉

所在地：別府市駅前町 13 番 15 号

①写真 12-1

・建築年代：大正 15 年（1926）４月 12 日落成
・構造・規模：木造２階建て
・屋根形状：金属板横葺き２連方形造り正面切妻棟付
・設計者・施工者：
・特徴：木造の柱、梁を外部に表した北方ヨーロッパの建築様式（ハーフチィンバー様式）で別府に現存する大正時代に造られた数少ない洋風建築。２階２連の方形屋根を結ぶ線に湯気抜き又は換気窓か、面白い形で越屋根が造られている。
・建築年代参考資料：昭和６年９月 27 日付け今日新聞

写真 12-1　駅前高等温泉

（13）浜脇温泉・浜脇高等温泉

所在地：別府市浜脇 1 丁目 8 番 20 号

①写真 13-1

・建築年代：明治 7 年（1874）
・構造・規模：木造
・屋根形状：桟瓦葺き入母屋造り
・設計者・施工者：不明
・特徴：板葺き屋根の回廊風木造塀が設けられ、本屋棟の軒出は深く、屋根は下り棟に刀根丸瓦が施され、破風板には鰭付懸魚、寺社建築とも見られる建物。屋敷内には複数の建物も在り複合用途を備えた温泉施設では。
・建築年代参考資料：佐藤 1896

写真 13-1　浜脇西温泉【清華泉】

②写真 13-2

・建築年代：明治 37 年（1904）落成
・構造・規模：木造平屋建て
・屋根形状：越屋根付き桟瓦葺き切妻造り
・設計者・施工者：不明
・特徴：正面の出妻壁に半円形の梁型、先端に飾の付いた吊束破風板にはうろこ状の飾り、玄関はバルコニー形式、玄関柱頭に飾り付き。正に木造西洋建築。屋根には温泉建築では必需の湯気抜きの越屋根が付く、別府温泉建築の楽しさ、面白さが伺われる。
・建築年代参考資料：田島 1910

写真 13-2　浜脇東温泉【弦月泉】

③写真 13-3

・建築年代：明治37年（1904）もしくは明治39年（1906）落成
・構造・規模：構造不明、3 階建て
・屋根形状：3 階棟（屋根材不明寄棟造り）
　　1、2 階棟（屋根材不明正面切妻棟付寄棟造り）
・設計者・施工者：不明
・特徴：正面中央部に 1 階、 2 階の切妻屋根、外壁はタイル状の仕上げ材開口部も非常に少ない、此れまでの温泉建築と少し違う、教会風建築に見える。②写真 13-2 東温泉の 2 年後に建築した物で異質の建物がほぼ同じ場所で同時代に在る。別府温泉建築のユニークさが伺われる。
・建築年代参考資料：加藤 1907、田島 1910

写真 13-3　浜脇西温泉【清華泉】

③写真 13-4

・建築年代：昭和 3 年（1928）6 月 10 日落成
・構造・規模：鉄筋コンクリート造 3 階建て
・屋根形状：陸屋根造り
・設計者別府市職員建築技師 池田 三比古　・施工者：藤本組
・特徴：敷地形状に沿って設計され、浜脇東西温泉改築として建設された。東温泉（浜脇高等温泉）と西温泉（浜脇温泉）の境界には車が通れる程の※南北貫通の通路が在る、2 組の温泉施設。公会堂と同年に竣工し外壁タイルも同材で兄弟建築の様であるが表情はまるで異なる。特に開口部のデザインは公会堂に比べ多様、兄弟で在りながら性格の違う人間の様である。
　工事費 123,000 円 昭和 63 年（1988）3 月浜脇再開発事業により解体。※現在残る立面図には通路は描かれていない。数年後に改修した可能性もある。
・建築年代参考資料：別府市 1933、安部 1987

写真 13-4　浜脇高等温泉

⑤写真 13-5

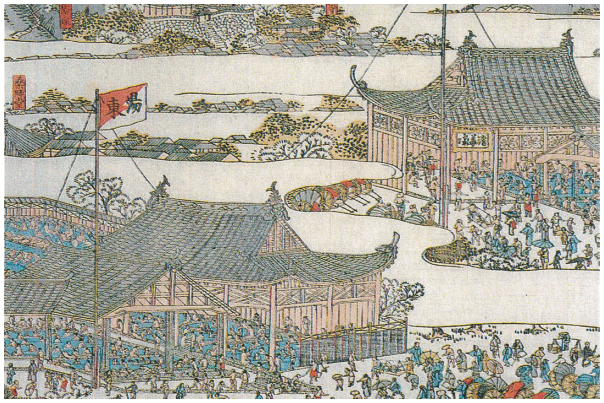
・建築年代：昭和３年（1928）６月 10 日落成
・構造・規模：鉄筋コンクリート造３階建て
・屋根形状：陸屋根造り
・設計者：池田 三比古（別府市職員建築技師）
　施工者：藤本組
・特徴：写真13-4と同一建物で、写真は西温泉（浜脇温泉）正面姿。男女共用の出入り口は大型の放物線アーチで公会堂とは異なったアーチ形状。東温泉（浜脇高等温泉）とは対照的で左右シンメトリーな簡素な正面姿。昭和 63 年（1988）３月浜脇再開発事業により解体。
・建築年代参考資料：別府市 1933、安部 1987

写真 13-5　浜脇温泉

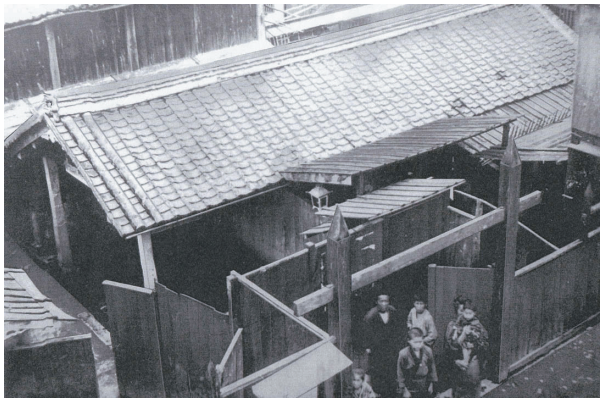
⑥写真 13-6

・建築年代：浜脇温泉 平成３年（1991）３月２日落成
　　湯都ピア浜脇 平成３年（1991）７月 17 日竣工
・構造・規模：鉄筋コンクリート造３階建て
・屋根形状：陸屋根造り
・設計者：（株）佐藤総合計画
　施工者：佐藤組・和田組・望月工業所建設共同企業体
・特徴：地下に駐車場を備え多目的に造られた温泉建築。地域の人達の屋外催しにも対応出来る様、広場も広く設けられている。浜脇再開発事業にて建て替えられた。
　写真のアーチは西温泉出入り口アーチのレプリカ。
・建築年代参考資料：別府市観光戦略部温泉課ヒアリング

写真 13-6　浜脇温泉・湯都ピア浜脇



浜湧温泉場賑之図（明治７年頃）


浜脇西温泉【清華泉】（明治７年頃）

明治 25 年頃の浜脇温泉

湯都ピア浜脇

(14) 浜脇薬師温泉

所在地：別府市浜脇２丁目

①写真 14-1

・建築年代：大正期

・構造・規模：木造平屋建て

・屋根形状：越屋根付桟瓦葺き寄棟造り、角に切妻屋根付き

・設計者・施工者：不明

・特徴：出入り口が建物の角部に設けられ、左右に男女別々の浴場が在ったのだろうか。此れまで紹介した建物も角部に出入り口を有する事例は数棟在ったが今日では珍しい形式。屋根瓦は白漆喰で補強されているが写真で見る他の建物も補強を施されている、当時此の辺りは鶴見降しの強風が吹いていたのだろうか。昭和 63 年（1988）３月浜脇再開発事業により解体。

写真 14-1　浜脇薬師温泉

(15) 柴石温泉

所在地：別府市野田４組

建築の変遷

①写真 15-1

・建築年代：写真は昭和 42 年頃

・構造、規模：写真中央浴場棟（木造階数不明）

・屋根形状：桟瓦葺き寄棟造り

・設計者、施工者：不明

・特　徴：現在の建物（写真 15-2）の配置と異なり、浴場と休憩場は川に沿って造られた道沿いに配置され、道幅も狭く石畳状で、「おやすみ所」の看板も２ヶ所程見られ温泉施設も数か所在ったのでは。自然の中に溶け込むように構成された温泉郷。

写真 15-1　芝石温泉の滝湯

②写真 15-2

・建築年代：平成９年（1997）９月 15 日落成

・構造・規模：木造平屋建て

・屋根形状：桟瓦葺き切妻造り

・設計者：（株）松井設計

施工者：（株）幸建設・真砂建設（有）・（株）九建

・特徴：浴室棟は太い柱、小屋組は大型梁を使用し構造材を表し木材が湯気に蒸れなく、長持ちする工夫と小屋組の美しさを表現した伝統的木造工法で造られた建物。露天風呂、むし湯、休憩室も備えている。

・建築年代参考資料：別府市観光戦略部温泉課ヒアリング

写真 15-2　芝石温泉の滝湯

(16) 堀田温泉

所在地：別府市堀田２組（現在の温泉）

①写真 16-1

・建築年代：東（大正 10 年）、西（昭和 10 年）

・構造・規模：不明

・屋根形状：不明

・設計者・施工者：不明

・特徴：おそらく池の畔の建物数棟いずれかが浴場で木造３階建ては旅館であろうか。背景に棚田が見え長閑な田園風景である。現在の堀田温泉は、写真と異なる場所に平成 15 年４月 10 日竣工、木造平屋建てが建設されている。

・建築年代参考資料：別府市観光経済部温泉課 1993

写真 16-1　堀田温泉

(17) 観海寺温泉（観海寺霊泉）

所在地：別府市観海寺

①写真 17-1

・建築年代：大正後期

・構造・規模：木造２階建てか

・屋根形状：玄関棟（桟瓦葺き切妻造り）
　　１階下屋（桟瓦葺き片流れ造り）

・設計者・施工者：不明

・特徴：１階は腰壁に下見板張りで洋風に見える、２階開放型の縁が付く和風建築で休憩室であろう。和洋混合の建物か。昭和６年（1931）10 月 28 日観海寺温泉街大火で焼失。

・建築年代参考資料：稗田 1925

写真 17-1　観海寺温泉（観海寺霊泉）

(18) 北浜天然砂湯

所在地：別府市北浜

建築の変遷

①写真 18-1

・建築年代：大正８年（1919）９月

・構造、規模：木造２階建て

・屋根形状：屋根材不明、兜造り

・設計者、施工者：不明

・特徴：砂湯後方の建物は、砂湯入浴後の砂落とし浴場で満潮時には入浴する施設と推察する。２階は浴後の休憩に利用し海側に屋根無しのベランダを設け、さらにベランダ前方１階より利用の簡易な造りの三方開放のカフェらしき建物で構成されている。浴後のお茶や別府湾の風や眺めを楽しんだのでは。屋外の砂湯は、周囲には囲いも無く別府湾を眺めての入浴。何とおおらかな風景。

写真 18-1　北浜天然砂湯

②写真 18-2

・建築年代：昭和 11 年（1936）７月 24 日落成

・構造・規模：鉄筋コンクリート造３階建て

・屋根形状：陸屋根

・設計者：別府市職員建築技師 池田 三比古、施工者：不明

・特徴：正面出入り口が建物の角に在り、浜脇高等温泉の形式に似ているが構造的な理由で中央に丸柱が在る。屋上には屋根付きのベランダが設けられ、別府湾、鶴見山の眺望を考慮して造られたのか。屋上屋根と開口上部の庇、出入り口上部に水平線が多用され強調された建物。工事費 16,000 円
　昭和 40 年（1965）12 月 23 日国道 10 拡幅により解体。

・建築年代参考資料：昭和 11 年７月 24 日付け大分新聞

写真 18-2　北浜天然砂湯館

(19) 別府市営温泉プール

所在地：別府市原町 15

①写真 19-1

・建築年代：昭和 31 年（1956）８月 17 日落成

・構造・規模：鉄筋コンクリート造上層鉄骨造

・屋根形状：金属板葺きアール屋根

・設計者：福田広太郎・田原宏・田崎一郎
　施工者：（株）巴組

・特徴：第 12 海軍航空隊（大分海軍航空基地）の格納庫（飛行機）鉄骨を再使用。鉄骨小屋組は（株）巴組が開発したダイヤモンドトラスで構成。プールは温泉利用の９コース 50 mプール。
　建設費１億円
　平成４年（1992）閉鎖・平成８年（1996）解体

・建築年代参考資料：別府市 1985

写真 19-1　別府市営温泉プール

(20) 霊砂泉

所在地：別府市浜脇 1 丁目

①写真 20-1

・建築年代：昭和 6 年（1931）11 月 3 日落成
・構造・規模：木造階数不明
・屋根形状：玄関棟（屋根材不明入母屋造り）
　　本屋棟（屋根材不明千鳥破風付切妻造り）
・設計者・施工者：
・特徴：2 階部分は大型の越屋根か浴後の休憩場かは不明だが、軒先を反らした屋根全体の姿、特に正面の姿は非常に優雅である。屋根葺き材は不明だが植物性の材と推察する。外壁は大開口の窓が四方に連続して設けられ、屋根と開口部のバランスも美しい。余りにも開口部が多く、此の美しさが建物の弱点にも成っているのでは。昭和 26 年（1951）10 月 14 日ルース台風で被害が生じ閉館となる。

写真 20-1　霊砂泉

・建築年代参考資料：別府市 1933

(21) 霊潮泉

所在地：別府市楠町 17

①写真 21-1

・建築年代：明治25年（1892）もしくは明治26年（1893）落成
・構造・規模：木造平屋建て
・屋根形状：越屋根（桟瓦葺き寄棟造り）、本屋棟（桟瓦葺き寄棟造り）
・設計者・施工者：不明
・特徴：越屋根の湯気抜き窓、 1 階浴場窓は太い荒素格子を組み込む、出入り口も同様な荒素格子戸。湯気抜き窓、浴場窓は建物周囲に連続し設けられ、換気は十分すぎる程に良かっただろう。格子、鴨居は太く蔵を連想する。（3）不老泉初期の建物に似ている。・建築年代参考資料：別府市 1933、平成 18 年 11 月 10 日付け今日新聞「懐かしの別府ものがたり№ 89」

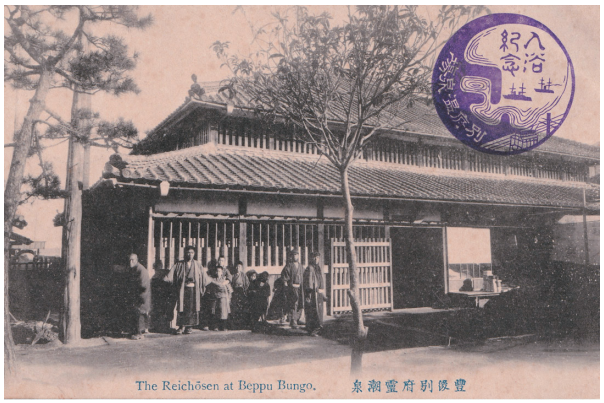


写真 21-1　霊潮泉

②写真 21-2

・建築年代：大正 6 年（1917）落成
・構造・規模：木造平屋建て
・屋根形状：越屋根（桟瓦葺き入母屋造り、正面切妻棟付）
　　本屋棟（桟瓦葺き寄棟造り、正面片流れ※向拝付）
・設計者・施工者：不明
・特徴：越屋根正面妻の柱頭には舟肘木が付き正面出入り口部は向拝柱を設けた寺社建築。明治 25 年時の窓には硝子が組み込まれていないが此の建物には組み込まれている、時代の流れを感ずる。工事費 5,614 円 ※向拝：「こうはい」礼拝の為に、正面に張り出した屋根の部分。
・建築年代参考資料：別府市 1933、別府市 1985

写真 21-2　霊潮泉

③写真 21-3

・建築年代：昭和 13 年（1938）1 月 7 日落成
・構造・規模：木造階数不明
・屋根形状：玄関棟（桟瓦葺き切妻造り）
　　本屋棟（桟瓦葺き入母屋造り）
・設計者：池田三比古、施工者：佐藤万平
・特徴：玄関棟柱頭部に舟肘木付、破風板に鰭付懸魚妻壁に珍しい※豕叉首を設け、外部開口部上下に内法長押、腰長押付の寺社建築様式の建物。工事費 20,000 円、昭和 30 年（1955）「別府市柔剣道会館」として光町に移築。昭和 50 年 7 月末 閉館
※豕叉首：「いのこさす」妻壁上部の斜材。
・建築年代参考資料：昭和 13 年 1 月 8 日付け今日新聞

写真 21-3　霊潮泉

(22) 鉄輪むし湯

所在地：別府市鉄輪上 1 組

①写真 22-1

・建築年代：大正期
・構造・規模：木造 2 階建て
・屋根形状：本屋棟（桟瓦葺き入母屋造り）
　　玄関下屋（屋根材不明片流れ造り）
・設計者・施工者：不明
・特徴：妻壁に狐格子を設け、妻屋根は箕甲造り破風板に鰭付懸魚と 2 階は寺社建築様式の造り。2 階手摺も寺社建築の技法で造られている。

写真 22-1　鉄輪むし湯

②写真 22-2

・建築年代：平成 1 8 年（2006）8 月 24 日落成
・構造・規模：
・屋根形状：玄関棟（桟瓦葺き切妻造り）
　　本屋棟（桟瓦葺き寄棟造り）
・設計者：別府市建築設計協同組合
　施工者：（株）平野工務店
・特徴：温泉建築は一般的建物に比べ、湯気、湿気等で耐久性が劣るが、この建物は此の点を配慮しむし湯を別棟に設け、弱点に対処している。
・建築年代参考資料：別府市観光戦略部温泉課ヒアリング

写真 22-2　鉄輪むし湯

(23) 渋の湯

所在地：別府市鉄輪風呂本 1

①写真 23-1

・建築年代：明治 28 年（1895）
・構造・規模：木造階数不明
・屋根形状：不明
・設計者・施工者：不明
・特徴：玄関上屋は無く、正面出入り口上の梁には、寺社では良く使われている絵様が刻まれ、近隣の人達は寺社に近い感覚で大切な建物とし守って来たでは。上部明かり取り窓には既に硝子が組み込まれ、下段の開口部は荒格子組み込み大和張り板目隠付の窓を設けた造り。
・建築年代参考資料：1902 大分県案内

写真 23-1　渋の湯

②写真 23-2

・建築年代：昭和 11 年（1936）
・構造・規模：木造平屋建て
・屋根形状：玄関棟（桟瓦葺き切妻造り）
　　本屋棟（桟瓦葺き入母屋造り）
・設計者・施工者：不明
・特徴：正面は、湯気抜き窓、明かり取り窓が少なく丸窓に斜めに飾りの組子を設け、庇は金属板か植物性材で葺く、数寄屋好みに成った建物。

写真 23-2　渋の湯

③写真 23-3
・建築年代：平成 10 年（1998）3 月 31 日落成
・構造・規模：木造平屋建て
・屋根形状：越屋根付き桟瓦葺き切妻造り
・設計者：渡邊誠司
　施工者：（有）河野建設
・特徴：正面入口に化粧丸柱を使用した片流れ屋根を設け、外壁は板張りとし、木材を多用した建物。入口にお地蔵さんをお祭りし地域の人達は大切にしている。
・建築年代参考資料：別府市観光戦略部温泉課ヒアリング

写真 23-3　渋の湯

（24）熱の湯

所在地：別府市鉄輪井田 1
①写真 24-1
・建築年代：昭和 11 年（1936）
・構造・規模：構造不明階数不明
・屋根形状：玄関棟（桟瓦又は洋瓦寄棟造り）
　　本屋棟（桟瓦又は洋瓦ベランダ付寄棟造り又は錣屋根）
・設計者・施工者：
・特徴：屋根に半円形換気窓が付き、玄関柱壁には大きめのタイルか石を張るホテルの車寄せ玄関の様。写真左手に四畳半程度の飛び出した陸屋根造りの小部屋が在るようだ。建物全体の姿を想像するに温泉建築でなく、ホテルの感がする。

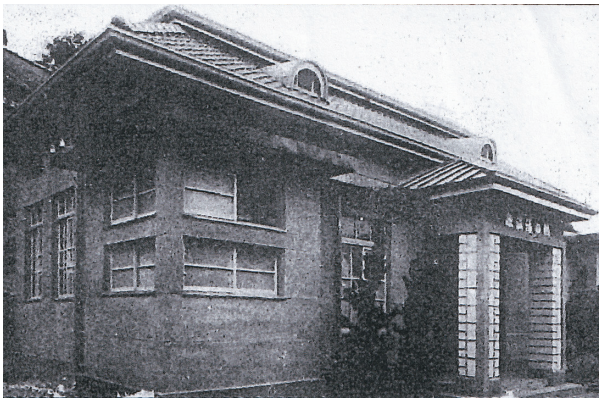


写真 24-1　熱の湯

②写真 24-2
・建築年代：昭和 52 年（1977）5 月 20 日落成
・構造・規模：１階鉄筋コンクリート造、２階木造２階建て
・屋根形状：桟瓦葺き切妻造り
・設計者・施工者：別府市
・特徴：非常にシンプルな建物で２階は地域の集会場と使用されている。冬は階下の浴場がオンドル代わりに成り居心地が良いのでは。
・建築年代参考資料：別府市観光戦略部温泉課ヒアリング

写真 24-2　熱の湯

（25）楠温泉

所在地：別府市楠町
①写真 25-1
・建築年代：明治８年（1875）、創設は安政以前
・構造・規模：木造平屋建て
・屋根形状：桟瓦葺き入母屋造り
・設計者・施工者：不明
・特徴：妻屋根は箕甲造り、破風板には鰭付懸魚が付く。 軒出も深く、写真では軒下は不明朗の為に定かでないが、組み物が在れば楼門風。男湯と書かれた額も神社の神額（扁額：へんがく）の様にも見える。
・建築年代参考資料：安部 1987

写真 25-1　楠温泉

②写真 25-2

・建築年代：大正 3 年（1914）6 月 21 日落成
・構造・規模：木造平屋建て
・屋根形状：桟瓦葺き入母屋造り
・設計者・施工者：不明
・特徴：湯気抜き用越屋根と本体棟が一体化した構造で、軒高さが高く湯気抜き欄間と大きな窓が建物周囲に連なる建物で、市松模様の欄間が優美。工事費 2,985 円、工期 150 日
　高等小学校の地理参考書に別府を代表する建物として写真入りで紹介。昭和 39 年（1964）鉄筋コンクリート造 4 階建てに建て替え、平成 17 年（2005）解体。
・建築年代参考資料：安部 1987

写真 25-2　楠温泉

（26）二條泉

所在地：別府市北浜（現 北浜 1 丁目 野上本館北側辺り）

①写真 26-1

・建築年代：大正 2 年（1913）（林・溝口 1915）
・構造・規模：木造 2 階建て
・屋根形状：桟瓦葺き入母屋造り
・施主：鶴田道造
・特徴：軒は深く、破風板には鰭付懸魚付く。2 階は宿泊施設であろう、開放の縁を巡らせ室内は天井も高く、縁と室内境には筬(おさ)欄間が付き寝殿造り様式の繊細な建物で在っただろう。
　工事費約 13,000 円、昭和 18 年（1943）1 月 24 日火災により解体
・建築年代参考資料：林・溝口 1915

写真 26-1　二條泉

（27）紙屋温泉

所在地：別府市千代町 8 番地 2 号

①写真 27-1

・建築年代：昭和 43 年 12 月 25 日
・構造、規模：鉄筋コンクリート造 2 階建て
・屋根形状：桟瓦葺き切妻造り
・設計者、施工者：不明
・特徴：道路脇の看板に、路地裏の情緒「紙屋温泉」の案内が在り、看板が無いと気が付かない場所に建つ。(1) 永石温泉と直線距離にして約 60 m程に近く、近距離に二つの温泉が存在するのは、別府温泉量の豊かさを象徴する。2 階は公民館とし利用している。正面には、御薬師様を祀る小さな御堂と脇に「のみ湯」が設けられている。
・建築年代参考資料：別府市観光戦略部温泉課ヒアリング

写真 27-1　紙屋温泉

（28）梅園温泉

所在地：別府市元町 5 番地 23 号

①写真 28-1

・建築年代：令和元年（2019）12 月 12 日落成
・構造、規模：木造平屋建て
・屋根形状：金属板竪ハゼ葺き片流れ造り
・設計者：DAN 設計室一級建築士事務所
　施工者：(有) 豊後建設
・特徴：別府商店街の路地裏に在り、平成 28 年（2016）4 月熊本大分地震で建物が倒壊し、解体撤去されたが地元の人達や多くの人達の尽力により令和 1 年（2019）に再建された建物。浴場内外壁に今日では懐かしいタイル絵や梅絵柄の小皿を埋め込む工夫を凝らし、別棟に開放型の気軽に楽しめる足湯を設け、地域の人達や観光客が楽しめる施設と成っている。
・建築年代参考資料：平野資料館平野芳弘氏ヒアリング

写真 28-1　梅園温泉

(29) 鶴見温泉

所在地：別府市鶴見園町

①写真 29-1

・建築年代：大正期
・構造・規模：構造不明階数不明
・屋根形状：屋根材不明袴腰造り
・設計者・施工者：不明
・特徴：正面にバルコニーを設け下層は車寄せ、バルコニー梁型には飾り付き、袴腰造りの屋根で外観は左右シンメトリーの洋風建築。浴場の写真には砂湯や桝目に区切られた複数の浴槽が在り、大型の複合建築。

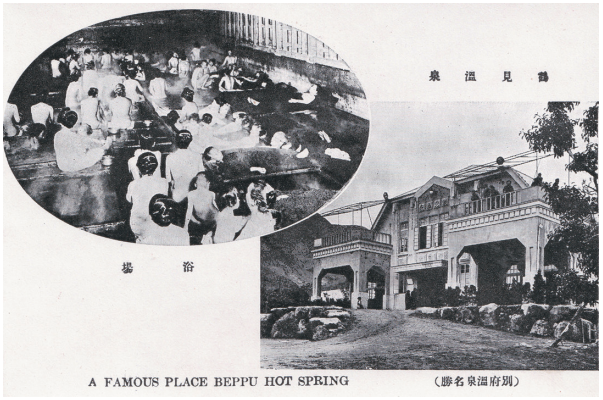


写真 29-1　鶴見温泉

(30) 照湯温泉

所在地：別府市小倉 1430

①写真 30-1

・建築年代：江戸時代　天保年間
・構造、規模：木造平屋建て及び２階建て、数棟
・屋根形状：桟瓦葺き及び板葺と推察、寄棟、入母屋、切妻造りの数種類
・設計者、施工者：不明
・特徴：慶長６年（1601）玖珠郡森藩主久留島家の所領と成り、天保年間に春木川左岸に造られた温泉施設。古絵図を見ると、御堂やむし湯、屋内打たせ湯、露天打たせ湯、全身入浴棟、休憩場等数棟の温泉施設に、春木川右岸は十数棟の宿泊、休憩、土産店の建物在り、当時のリゾート地の様子が描かれている。現在は妻壁に鬼面が飾られた温泉建築が存在する。
・建築年代参考資料：別府市教育教育委員会・別府市文化財保護審議会 2013

写真 30-1　照湯温泉　【大分県立歴史博物館】

写真 30-2　照湯温泉　【大分県立歴史博物館】

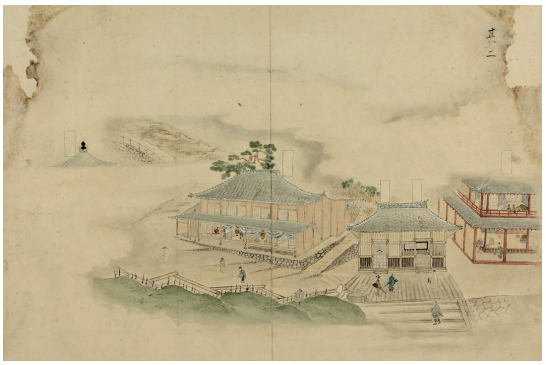


写真 30-3　照湯温泉　【大分県立歴史博物館】

(31) ひょうたん温泉

所在地：別府市鉄輪 159-2

①写真 31-1

・建築年代：昭和２年（1927）
・構造・規模：木造７階建て
・屋根形状：曲面
・施主：河野 順作
・特徴：高さ 60 尺（約 18.2 m）とも 70 尺（約 21.2 m）とも言われ、温泉設備付展望台で別名「ひょうたん閣」。三次元曲面を持ち、且つ、木造７階建て、高度な木造技術を駆使し造られた建物。推察だが別府特産の竹工芸の技術と材料も応用したのでは。
　昭和 20 年（1945）５月解体
・建築年代参考資料：ひょうたん温泉ヒアリング

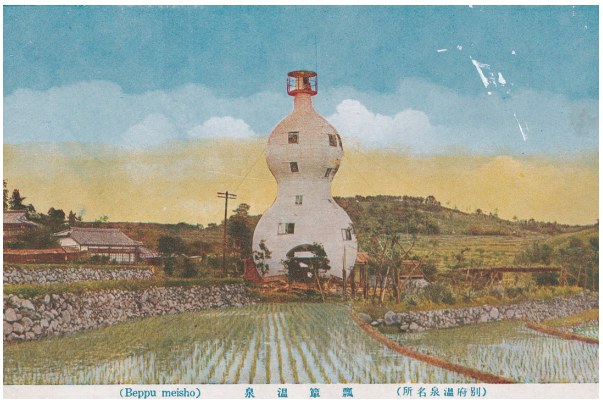


写真 31-1　ひょうたん温泉

参考文献

内務省衛生局　『日本鉱泉誌』明治 19 年（1886）
佐藤蔵太郎　『別府温泉記』明治 21 年（1888）
加藤賢成　『豊後名勝温泉案内』明治 21 年（1888）
棉引　泰　『別府温泉紀事』明治 27 年（1894）
佐藤蔵太郎　『南豊温泉記』明治 29 年（1896）
吉井吉太郎　『豊後温泉案内』明治 31 年（1898）
野尻従吉　『新撰豊後温泉誌』明治 35 年（1902）
御越町　『豊後御越町誌』明治 35 年（1902）
加藤十次郎　『豊後温泉誌』明治 40 年（1907）
佐藤蔵太郎　『別府温泉誌』明治 42 年（1909）
田島大機　『新撰南豊温泉記』明治 43 年（1910）
和田周蔵　『別府温泉写真帖』大正元年（1912）
林通教・溝口信太　『通俗別府温泉案内』大正 4 年（1915）
上野一也　『泉都別府温泉案内』大正 6 年（1917）
板井松助　『別府温泉案内』大正 9 年（1920）
緒方梅歌　『最新大別府案内』大正 10 年（1921）
稗田武士　『最新別府案内』大正 13 年（1924）
稗田武士　『最新案内別府温泉』大正 14 年（1925）
永松　彦　『別府温泉名勝案内』大正 15 年（1926）
別府市　『別府市史』昭和 3 年（1928）
別府市　『別府市誌』昭和 8 年（1933）
網中幸義　『大別府人物史』昭和 10 年（1935）
高安慎一　『別府温泉療養案内』昭和 25 年（1950）
別府市観光協会　『別府温泉史』昭和 38 年（1963）
堀藤吉郎　『別府温泉歴史略年表』昭和 41 年（1966）
是永　勉　『別府今昔』昭和 41 年（1966）
大分県　『大分県鉱泉誌』昭和 45 年（1970）
狭間　久　『豊後大友物語』昭和 48 年（1973）
安部　巌　『写真集・別府』昭和 50 年（1980）
別府市　『別府市誌』昭和 60 年（1985）
安部　巌　『別府温泉湯治場大辞典』昭和 62 年（1987）
別府市観光経済部温泉課　『市営温泉めぐり今昔』平成 5 年（1993）
大分みらい信用金庫　『別府・温泉読本』平成 15 年（2003）
「大分新聞」大正期・「豊州新報」大正期・「大分合同新聞」・「今日新聞」
小野　弘　「懐かしの別府ものがたり」『今日新聞』平成 18 年（2006）－平成 24 年（2012）
別府市教育委員会・別府市文化財保護審議会　『別府市の文化財と保護樹（改訂版）平成 25 年（2013）
別府町　「町議会議事録綴」
別府市　「市議会議事録綴」

写真提供協力者　堀千万人氏
協力機関　大分県公文書館、別府市総務部総務課、別府市観光戦略部温泉課、ひょうたん温泉
大分県立歴史博物館

執 筆 者　別府市文化財保護審議会委員　外山健一（地域近代史）・三ヶ尻勝（近代建築）

べっぷの文化財　No.51
－別府の温泉建築－

令和３年３月

発　行　　別府市教育委員会
編　集　　別府市教育委員会
　　別府市文化財保護審議会
印　刷　　大野印刷株式会社